35

録·解説 山口忠光さん がって、蛇が角を生やし 酒

子が3人あって、 (明治40年生まれ) 昭和63年8月19日収録 物持ちの家に女の ので、読んでおった法華 経の本を投げたら、蛇の よう頼んだら、よろしい 頭へ当たり角が落ちて、 て娘のとこへ寄ってきた

しいのを買ってきた。娘 んは町で法華経の一番難 行って法華経の本を買っ くので、お父さん、 姉さんも次のお姉さんも でしょうか」って。 出て「娘さんをもらえん てきてください」。 トの娘さんが「わしが行 「行かん」て言う。 奥の池に行って、ほ よしよし」とお父さ

の嫁になった娘

(東伯郡三朝町大谷)

はいかんし、普段着のま た。娘さんは帰るわけに 湖の中へ沈んでしまっ まで来た。 ま出たら、とうとう大阪 十二単に着替えて、それから 入ってしまって、最後に になるとみんなが風呂に 格好ようしられんし、夜 はぼろを着て、髪もよう もっておるので、その部 して、明くる日になって それを見たら一目ぼれを れいな娘さんがおった。 屋をのぞいてみたら、き 会わしたら、若旦那が起 き上がりご機嫌が直っ て末永く幸せに暮らした て、それを嫁さんに迎え そいから連れて行って

お経の本を読んどった。 から一生懸命、法華経の 起きん。 起きなさい」と言っても も起きてこん。「若旦那、

って。それで昔こっぷり。

山口さんが10歳余りの

祖父からよく聞いた

5

女中に使ってもらう 大阪の鴻池まで行っ あちこち歩きよった

して帰ってきて、灯がと 鴻池の若旦那が夜遊び ろう」。 そいからお医者さんに診 でも治りゃあせん。この せたら「これは薬を飲ん 豕に好いた女がおるじゃ 「食事もほしくない」。 成』本格昔話の「婚姻 る。 頃 話だったとのことであ

関敬吾『日本昔話大

ない。それで女中を次か かせるけど、うんともす みるけど、全然話になら あれこれと聞き合わせて んとも言わん。 のところにお見舞いに行 ら次へと呼んで、若旦那 こんどは家内のうちで などの蛇婿入りの理由が では、男親がヘビに田の 願し、娘を嫁に約束する 省略されていて、 カエルを飲まないよう懇 水を入れてもらうとか、 が原型であるが、この話 異類智」の「蛇聟入」と 「蛙報恩」の合体した話

ら、残すわけにはいか になって、「若旦那に会 と言ったけど「おまえが っとくれ」。「だめです」 一人になっとるんだか とうとう最後、その娘 出てくるなど、微妙な変 化が見られるところが風 鴻池という財閥の名前が

(元鳥取短期大学教授 (水曜日に掲載

命読んどった。

池の水が泡になって上

とりでお経の本を一生懸

ちゅうことになった。昼

軍よしだった。

奥の池から蛇が化けて



イラスト・福本隆男

鳥取県立博物館HP「鳥取の民話」コーナーで語り手の音声が聴けます。